

スパークス・M&S・ジャパン・ファンド

愛称:華咲く中小型

マンスリーレポート
基準日 2021年12月30日

【運用実績】

	過去のパフォーマンス(%)		直近の分配実績(円)		
	ファンド	ベンチマーク			
過去1ヵ月間	3.91	2.97	第10期	2017/1/25	300
過去3ヵ月間	-3.05	-3.86	第11期	2018/1/25	350
過去6ヵ月間	2.11	0.75	第12期	2019/1/25	300
過去1年間	6.77	9.32	第13期	2020/1/27	350
過去3年間	33.86	30.95	第14期	2021/1/25	350
設定来	254.56	69.53	設定来累計		2,200

※決算期に収益分配があった場合のファンドのパフォーマンスは分配金(税金控除前)を再投資することにより算出される収益率です。従って実際の投資家利回りとは異なります。

【資産別構成】

資産種類	比率(%)
株式	97.4
投資信託証券	0.0
その他株式関連証券	0.0
現金その他	2.6

※比率は対純資産総額

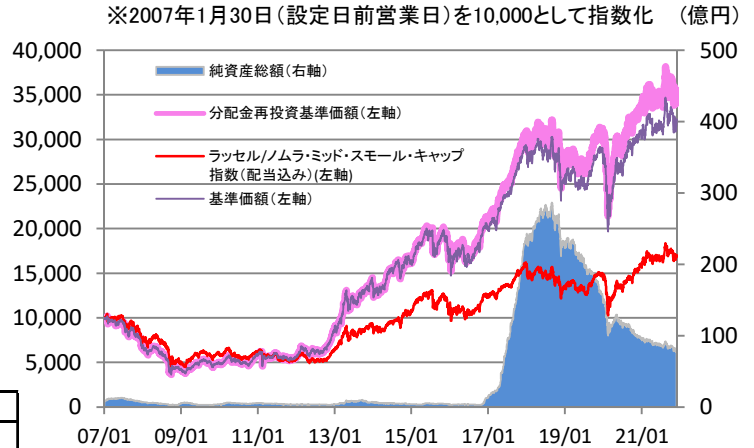
【株式市場別構成】

市場	比率(%)
東証1部	92.3
ジャスダック	3.6
東証マザーズ	1.5
その他市場	0.0
株式組入比率	97.4

※比率は対純資産総額

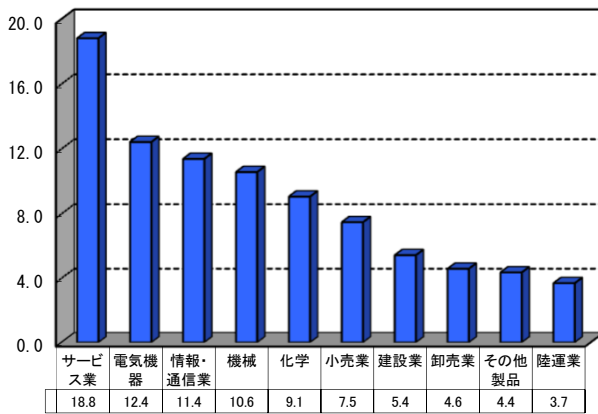
【基準価額・純資産総額の推移】

基準価額	解約価額	純資産総額
32,230 円	32,134 円	80.27 億円



※当ファンドのベンチマークは、ラッセル/ノムラ・ミッド・スモール・キャップ指数(配当込)ですが、当ファンドはベンチマークに連動するものではありません。※基準価額は、信託報酬等控除後です。※分配金再投資基準価額は、当該ファンドの信託報酬控除後の価額を用い、分配金を非課税で再投資したものと計算しております。※過去の実績は将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

【株式業種別構成 上位10業種(%)】



※比率は対純資産総額

【組入有価証券 上位10銘柄】

(銘柄総数:61銘柄)

	銘柄	市場	業種	比率(%)
1	前田工織	東1	その他製品	4.4
2	センコーグループホールディングス	東1	陸運業	3.7
3	NECネットエスアイ	東1	情報・通信業	3.6
4	山一電機	東1	電気機器	3.4
5	セブテーニ・ホールディングス	JQ	サービス業	3.3
6	住友ベークライト	東1	化学	3.2
7	三洋化成工業	東1	化学	3.2
8	パリュウ・コマース	東1	サービス業	3.2
9	シークス	東1	卸売業	3.1
10	アルバック	東1	電気機器	3.1

※略称は下記の取引市場を指します。 ※比率は対純資産総額
東1: 東証1部、東2: 東証2部、マザーズ: 東証マザーズ、JQ: JASDAQ

※上記記載のうち、【運用実績】、【基準価額・純資産総額の推移】以外は、当ファンドが投資するマザーファンドに関する情報です。
※「比率(%)」は、当ファンドが投資するマザーファンドの純資産総額に対する比率です。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡しますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。

スパークス・M&S・ジャパン・ファンド
愛称:華咲く中小型

マンスリーレポート

基準日 2021年12月30日

【運用担当者のコメント】

◆株式市場の状況

当月の日本株式市場は、新型コロナウイルスの変異種（オミクロン株）に対する警戒から前月末に急落した反動で、上昇して始まりました。

月半ばには各国中央銀行による金融政策正常化に向けた動きや、中国人民銀行（中央銀行）の利下げ決定を受けた中国経済の先行き懸念などから下落に転じました。

年末にかけては市場参加者の減少により出来高が細る中、半導体関連銘柄や割安感の強い大型株が買われました。

この結果、TOPIX（配当込み）は前月末比3.45%の上昇、当ファンドのベンチマークは同2.97%の上昇でした。

◆ファンドの運用状況

当月、当ファンドにおいては、マクロミルなどが上昇、一方でくふうカンパニーなどが下落しました。マクロミルは一部の証券会社による目標株価の引き上げがあったこと、くふうカンパニーは特段のニュースフローはなかったものの、株式需給の悪化がそれぞれ株価変動の要因と考えます。

投資行動の観点では、引き続き既保有銘柄の買い増しとともに、株価が上昇し割安感が薄れた銘柄、当初の投資仮説から実態が乖離したと判断した銘柄の売却を行っています。当月の新規投資銘柄はありません。

◆今後の運用方針

欧米各国に続き、日本でも新型コロナウイルス変異種（オミクロン株）の感染が拡大し、再度警戒感が高まりつつあります。経済活動の本格的な回復に対する阻害要因となりかねず、短期的な懸念材料です。他方、他国の株式市場との比較では相対的に低調なパフォーマンスにより日本株式市場全体の割安感が高まる環境にあります。

半導体不足に代表されるサプライチェーンの混乱が至るところで問題となっています。資源インフレの長期化も現実味を帯びる中、製造業各社は調達計画に対し難しい舵取りを迫られています。トップダウンで今後の需給バランスを予測することは困難な状況ではありますが、当ファンドは、ボトムアップ・アプローチにより水面下で進行する構造的な変化に注目し投資機会の発掘を進めています。

（次ページへ）

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社（以下当社）が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なく複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書（交付目論見書）のご請求、お問合せは販売会社まで。

スパークス・M&S・ジャパン・ファンド

愛称:華咲く中小型

マンスリーレポート
基準日 2021年12月30日

(前ページより)

当月はその一つとして、「自社半導体開発の加速」に焦点を当てたいと思います。

GAF A (Google社、Apple社、Facebook社、Amazon社。米国のIT関連企業大手4社の頭文字をとって名付けられた造語)をはじめとしたIT大手企業が、自社のオリジナル半導体を開発するというニュースは目新しいものではありません。Apple社は「Appleシリコン」と呼ばれる自社開発した半導体を10年前からiPhoneに採用していますし、他社もサーバー向けに自社半導体を利用するとの報道がなされています。

ここ一年で自社半導体を開発する企業の数が格段に増加した印象を持っています。一つの要因として挙げられるのは、部材不足を背景とした調達リスクの低減であると考えられますが、より重要な理由として、1) デバイスメーカーが自社製品を差別化するため半導体開発まで行う必要が出てきたこと、2) TSMC社(台湾)などファウンドリ側から半導体開発のためのソリューション提供がなされるようになったこと、の二点が挙げられると、当ファンドは考えています。

1)の顕著な例はiPhoneで、OSからハードウェア全般に亘るまで自社設計を行うことで製品に統一感を与え、高いブランド価値を生み出しています。近年ではカメラ性能の向上が著しく、画質改善や加工を行うための画像処理エンジン(GPU)への要求が高まったことで、より高度なプロセッサへと開発が進んでいることが見て取れます。そして、この動きはApple社に限らず、Google社をはじめとした米IT関連大手企業、そして中国のスマートフォンメーカーにも広がりを見せています。

中国のスマートフォン大手メーカーのOPPO社は、12月に入り自社半導体をスマートフォンに搭載すると発表しています。スマートフォンのハードウェア性能の差別化が難しくなるという背景を踏まえれば、スケールメリットを活かせる大手メーカーは、今後も自社半導体を開発する可能性は高いと考えます。また、今後登場するであろうIoT(Internet of Things、モノのインターネット)やウェアラブルデバイスにおいても、同様の流れは続くものと考えられます。

以上のような開発の方向性を踏まえ、当ファンドでは半導体の種類の増加を事業機会と捉える企業に投資を行っています。同社は従来から有力顧客との関係を構築し、開発主体の増加に対しても十分に対応できる体制を有しているため、今後の需要拡大を十分に獲得できると、当ファンドは考えます。一方で多くの市場参加者は、「半導体需給のタイト化を背景とした装置需要の拡大」に引き続き注目しており、バリュギャップは大きいと考えています。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写をすることを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。